

## CALLによる高校での オラルコミュニケーション教育とその効果

ロバート・シャテラン

本論文では福岡の高校で行ったCALL (Computer Assisted Language Learning) の効果について検証する。このリサーチは通常の教科書を使った教室でのオラルコミュニケーション1の授業とダイナミックイングリッシュ1のテキストを使用したコンピュータールームでの授業を体験した186名の高校生を対象に行った。さらに下記の質問に対する回答を調査した。

その1 「生徒は通常の教室での授業をコンピュータールームの方が英語の学習効果があがったか。」

その2 「生徒はコンピュータールームで学ぶ際、プレティーチングから得たものがあつたか。」

その3 「生徒はコンピュータールームでの授業を楽しみ感じたか。」

参加者に対しては、50分授業を5レッスン受ける前と受けた後にそれぞれ、その学習進捗とCALLに対する態度について査定し、その結果について分析と比較を行った。

このリサーチの主な結論としては、

- (1) CALLは成績のあまりよくない生徒に対して最も効果がみられた。
- (2) コンピューターを使つての学習に対する学習者の態度は、目的の言語のプレティーチングがあつた場合の方が好評である。
- (3) CALLによる授業は楽しい。

があげられる。さらに、生徒の大半がCALLによる授業をもつと続けて欲しいと感じていたようである。